

# 日本沿岸から初めて記録されたタキフグ *Takifugu oblongus*

酒井治己<sup>1†</sup>, 藤田 勲<sup>2</sup>

## A New Record of *Takifugu oblongus* from Japanese Coastal Waters

Harumi Sakai<sup>1†</sup>, Isao Fujita<sup>2</sup>

**Abstract :** A rare warmer water puffer *Takifugu oblongus* was recorded for the first time from Japanese coastal waters. The waters around the Sea of Japan coast of Yamaguchi Prefecture becoming gradually warmer, southern marine animals such as this species may gradually extend their habitat to the north. The toxicity still being unknown, *T. oblongus* ought not to be eaten if collected.

**Key words :** Puffer, *Takifugu oblongus*, new record, poisonous fish

### 緒 言

トラフグ属 *Takifugu* は、フグ毒 tetrodotoxin を持つ有毒魚でありながら、縄文時代から賞味されている有用魚類であり、山口県下関市を中心に独特のフグ食文化を発達させてきた<sup>1)</sup>。本属には約25種が含まれ、そのうち日本沿岸には12種が生息し、東シナ海などから漁獲される種を含めて約20種が日本に水揚げされる<sup>2-4)</sup>。本属魚類のほとんどは東アジア海域に分布するが、2種ほどインド洋まで生息し、特に本属のタイプ種であるタキフグ *T. oblongus* (Bloch)<sup>2,5)</sup> は南アフリカ東岸にまで広く分布している<sup>2,6)</sup>。ミトコンドリアDNA塩基配列の解析によると<sup>7)</sup>、本属魚類は互いに極めて近縁で、東アジア海域において急速に種分化しているグループだと考えられる。そのなかで最も広域に分布するタキフグは遺伝的にも他種から最も遠縁な種と位置づけられている。

以上のように、トラフグ属の分布形成や進化を考える上で、タキフグは重要な鍵を握る種だと考えられる。しかしながら、日本においてはまれに東シナ海などの南方海域で漁獲されて水揚げされるのみで<sup>8-9)</sup>、日本沿岸からの捕獲記録はないようである。このたび、山口県萩市地先で漁獲

されたタキフグ1尾が、山口県漁業協同組合萩地方卸売市場に水揚げされた。この個体は、日本沿岸からの初記録だと考えられるので、ここに報告する。

体各部の測定にはノギスを用いた。脊椎骨数、背鰭、臀鰭および尾鰭条数の計数は弱エックス線写真によった。標本は、国立科学博物館 (National Museum of Nature and Science, Tokyo) に登録した。



**Fig. 1.** *Takifugu oblongus* collected from off Hagi, Yamaguchi Prefecture, 211.0mm standard length, NSMT-P 93290; side (A) and back (B).

2009年2月13日受付. Received February 13, 2009.

1 水産大学校生物生産学科 (Department of Applied Aquabiology, National Fisheries University)

2 山口県漁業協同組合萩地方卸売市場 (Hagi Local Fish Market, Fisheries Cooperative Society of Yamaguchi Prefecture)

† 別刷り請求先 (corresponding author) : sakaih@fish-u.ac.jp

### 標本

NSMT-P 93290, 1個体, 雌雄不明, 標準体長211.0mm, 山口県萩市鯖島地先, 水深約10m, 小型底引き網二種, 2008年10月17日。

### 記載

全長252.0mm, 標準体長211.0mm, 頭長63.6mm, 尾柄高19.5mm, 眼径9.5mm, 吻長35.0mm. 脊椎骨数9+12=21, 胸鰭条数16, 背鰭条数10, 臀鰭条数10, 尾鰭分岐条数4+5=9。

上顎が下顎より突出している。鼻孔は二対である。尾鰭後縁は湾入せず, 若干丸い截形である。左右の鼻孔の間から背鰭までの背面および項部から排泄口までの腹面に小棘が密に分布し, それらはより粗に分布する小棘によって胸鰭の前方と後方で連続する。

腹面は白く, 側面は若干黄色味を帯びる。背面から側面にかけて二本一組と見える褐色横帯が有るが, それは頭部より躯幹部の方が幅広い。頭部背面では特に斑模様となり, 横帯は不明瞭である。胸鰭は淡色である。背鰭および尾鰭は褐色であるが, 尾鰭の後下縁は白い。臀鰭は白色である。

### 備 考

タキフグは東シナ海から東南アジア, オーストラリア, 南アフリカ東岸に分布する南方種とされ<sup>2, 4, 8, 9)</sup>, このたびの報告が日本沿岸からの初記録となる。近年, 山口県沿岸においても海水温の上昇傾向が取りざたされ, 直接的な関連は不明ながら南方性海洋生物の発見が増加している<sup>10)</sup>。このたび漁獲されたタキフグも, そうした傾向を反映した一例かもしれない。今後さらに捕獲される可能性を否めない。現在まで南方海域からの水揚げ例も多くないため, 毒性の調査は充分なされておらず, 食毒不明とされている<sup>4, 8)</sup>。今後新たに本種が発見された場合でも, くれぐれも食用に供さないよう注意すべきである。

### 謝 辞

弱エックス線写真撮影にご協力頂いた水産大学校生物生

産学科教授の須田有輔博士, タキフグの生息や捕獲の情報を頂いた長崎大学名誉教授の多部田修博士, および標本登録の労を頂いた国立科学博物館の松浦啓一博士に深くお礼申し上げます。

### 引用文献

- 1) 多部田修: 「進化の袋小路に入った」特異な魚, ふぐ. 月刊専門料理, (2), 52-56 (1988)
- 2) Abe T: Taxonomic studies on the puffers (Tetraodontidae, Teleostei) from Japan and adjacent regions - V. Bull Biogeog Soc Japan, 14, 89-140 (1949)
- 3) Cheng QT, Wang CX, Tian MC, Li CS, Wang YG, Wang Q: Studies on the Chinese Tetraodonoid fishes of the genus *Fugu*. Acta Zool Sinica, 21, 359-378, pls I-II (1975)
- 4) 山田梅芳: フグ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索, 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会, 東京, 1418-1431 (2000)
- 5) Matsuura K: The pufferfish genus *Fugu* Abe, 1952, a junior subjective synonym of *Takifugu* Abe, 1949. Bull Nat Sci Mus, 16, 15-20 (1990)
- 6) 西村三郎: トラフグ属の由来. 南紀生物, 8, 5-11 (1966)
- 7) Yamanoue Y, Miya M, Matsuura K, Miyazawa S, Tsukamoto N, Doi H, Takahashi H, Mabuchi K, Nishida M, Sakai H: Explosive speciation of *Takifugu*: another use of fugu as a model system for evolutionary biology. Mol Biol Evol, (accepted)
- 8) 阿部宗明, 多部田修: 日本近海産フグ類の鑑別と毒性. 中央法規出版, 東京 (1984)
- 9) 原田禎顕, 阿部宗明: フグの分類と毒性. 恒星社厚生閣, 東京 (1994)
- 10) 小林知吉, 堀 成夫, 土井啓行, 河野光久: 山口県の日本海沿岸域における海洋生物に関する特記的現象. 山口水研七研報, (4), 19-56 (2006)